

科目名		一級建築法規				
担当教員		石井 孝典		実務授業の有無	○	
対象学科		一級建築士専攻科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	72
授業概要、目的、授業の進め方		建築基準法及び都市計画法等によって建築物を計画・設計するうえでの様々な法規制がなされ、また、時代の変化に対応して改正がなされている。最新の建築関連法規を座学と演習を通して学ぶ。①建築関連法規に準拠した建築構造・機能などの重要性を学ぶ。②建築計画の最低基準を定めた重要な分野であるとの認識で、法規の制度・規制内容を理解する。③図説講義→課題→振り返り→確認→習得を繰り返すことで、質の高い建築技術を習得する。④また、一級建築士試験合格を目指し、模擬テスト等で実力を養う。				
学習目標 (到達目標)		最新の建築基準関連法規の制度やその規制内容等についての知識を修得し、建築物の設計・工事監理に関する法令・技術基準を修得することで、一級建築士合格、実務技術の修得を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①1級建築士講座テキスト（総合資格学院） ②1級建築士問題集（総合資格学院）				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	都市計画法			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
2	消防法			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
3	高齢者、障害者等の円滑化の促進に関する法律 建築物の耐震改修の促進に関する法律			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
4	住宅の品質確保の促進等に関する法律 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
5	建設業法			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
6	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 その他の関係法令			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
7	全範囲問題集			方法：過去問題を中心とした復習テスト 準備学習：教科書の復習		
8	最終確認			方法：模擬試験 準備学習：過去問の復習		
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
期末考査	取組姿勢			卒業後、実務において建築物の設計及び工事監理等ができるよう建築基準法・関連法規を十分理解してもらうため、重要項目は繰り返し解説をする。そして一級建築士の合格を目指す。		
80 %	20 %	%	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						